

国が示すローテーション散水では、潮風害は防げない。

- アセスでは『水稻のデータ』を基に『北東の季節風のみ』対象として検討している。
- ①本来、台風襲来時などは、全ての方角の風の可能性があり、影響範囲は広がる
- ②潮風害の影響を受けやすい野菜で検証すべき



アセス準備書で想定されている影響範囲

本来、潮風害の影響範囲とすべきエリア

○アセスでは、潮風害の防止対策として、ローテーション散水を行うとしているが、中央干拓地だけでも3日かかる。短期間に一気に洗い流さないと潮風害が発生

<国の環境アセス準備書>

潮風害防止のための散水量 4mm
中央干拓地の地下水揚水量
最大8800m³/日
(中央干拓地の農地面積 581ha)

○問題点

- ・散水量4mmでは十分な洗い流しができない(耐塩性が強いサトウキビで30mmの散水によって潮風害の軽減効果発現の報告あり(沖縄総合事務局))
- ・仮に、散水量4mmとしても、1日最大220haしか散水できず、中央干拓地では3日かかる
- ・4時間以内に洗い流さないと顕著な効果はない(土地改良事業計画設計基準 計画 農業用水(畑)より)
- ・アセスによれば、飛来塩分の分析に4時間かかる